



紙芝居の魅力さらに

「文化の会」20周年

代表・酒井 京子さんに聞く
童心社会長



紙芝居舞台を使って「ロボット・カミイ
ちびぞうのまき」を演じる酒井さん

紙芝居を愛する人、興味のある人、演じたい人など、さまざまな人が国境を越えて出会い、交流する「紙芝居文化の会」が20周年を迎えました。代表の酒井京子さん(童心社会長)に、紙芝居への思いを聞きました。(二宮里里)

紙芝居の魅力は? 紙芝居は、表に絵、裏に脚本が書かれた何枚かの紙でできています。演じ手は、紙芝居を舞台に入れ、観客と肉声でコミュニケーションをとりながら演じます。

童心社の紙芝居を代表する『おおきく おおきく おおきく あれ』(写真1)。紙芝居・絵本作家の、まついのりこさんの作品です。演じ手が「ちっちゃな ちっちゃな

「おおきく おおきく おおきく あれ」(写真1)

「おおかあさんのほし」(写真2)

「あひるのおうさま」(写真3)

ハラハラ、ドキドキ。心を揺さぶられる強烈な体験です。子どもの成長を願う「大きくなあれ」が同作のテーマ。演じ手と観客、観客同士の生のやりとりをとおして、作品の世界への共感が生まれるのが紙芝居です。その喜びがあるから、子どもたちは紙芝居が大好きなのだと思えます。

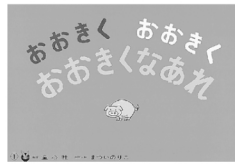


写真1 「おおきく おおきく おおきく あれ」



写真2 「おおかあさんのほし」(刊行時は「お母さんの話」)



写真3 「あひるのおうさま」

ハラハラ、ドキドキ 生のやりとりに共感

「紙芝居の歴史と、紙芝居文化の会の歩みについて教えてください」

紙芝居は1930年代、日本で生まれました。テレビのない時代、子どもたちは紙芝居に夢中になりました。しか

し、31年の「満州事変」から、日本は中国、アジアへの侵略戦争を開始。検閲を受けた国策紙芝居が戦意高揚への共感を高める道具として悪用されました。負の歴史です。戦後、戦争に協力した反省から、平和で人間の命を大切に、子どもを



写真6 「三月十日のやくそく」(出版はすべて童心社)



写真5 「ころころじゃっぽーん」



写真4 「たべられたやまんば」

『おしれのぼうけん』(古田足日、田畑新一)、『14ひきのシリウス』(いわむらかずお)、『(い)わむらかずお』などの編集に携わってきた91年のある日のこと、まついさんから電話がかかってきました。

「今、ベトナムに来ているの。出版社の社長さんが『紙芝居のつくり方を教えてほしい。ベトナムで広めたい』と言っているから、童心社のみならず一緒に来てくれないだろうか?」と。そこからベトナムでの紙芝居交流が始まりました。

愛することを原点にした紙芝居づくりが始まりました。現在も童心社から発売されている『おおかあさんのほし』(写真2)、『おおきく おおきく あれ』(写真1)、『岩崎ちひろ』。この作品は「教育紙芝居研究会」が刊行したものです。同会の活動を引き継ぎ、紙芝居の出版社として童心社が57年に創立されました。

世界55カ国にも、私が69年に入社して、

「紙芝居文化の会」のおすすめは? 観客参加型の代表は『おおきく おおきく おおきく あれ』ですが、物語完結型にも優れた作品がいっぱいあります。会では「おすすめ紙芝居」として推薦しています。

「あひるのおうさま」(写真3) 脚本・堀尾青史、絵・田島征三。アヒルが横暴な王様を、仲間と一緒に退散させるフランス民話です。日本の民話「たべられたやまんば」(写真4) 脚本・松谷みよ子、絵・二俣英五郎。松谷さんは紙芝居が大好きでした。劇的な展開が魅力です。

赤ちゃんから采しめるのが「ころころ じゃっぽーん」(写真5) 脚本・絵・長野ヒデ子。平和の大切さを考える『三月十日のやくそく』(写真6) 脚本・早乙女勝元、絵・伊藤秀男。優れた紙芝居の深いメッセージを受け取ってほしいと願っています。

「紙芝居の歴史と、紙芝居文化の会の歩みについて教えてください」

紙芝居は1930年代、日本で生まれました。テレビのない時代、子どもたちは紙芝居に夢中になりました。しか